

学生の卒業論文から見た地域活性化に関する取組み
Initiatives for Regional Revitalization from Perspective
of Students' Graduation Theses

北村 浩二*

KITAMURA Koji

1. はじめに

関西国際大学の三木キャンパスにある経営学科の学生は、地域マネジメントを専攻することとなっている。特に学生は4年生で取り組む卒業論文において、地域が抱える課題を解決し、安全・安心な社会を実現するため、地域活性化に貢献できるマネジメントの理論と手法を学んだ集大成を行う。

筆者は、2025年3月に卒業する学生13名を対象とした卒業論文の指導を行った。この学生の入学年度においては、専攻が地域マネジメントだけに限定されているのではなく、防災・危機マネジメント専攻の学生もいる。13名のうち、地域マネジメント専攻が9名であり、防災・危機マネジメント専攻が4名である。しかし、これらの学生13名全員が硬式野球部出身者であることから、専攻が地域マネジメントや防災・危機マネジメント専攻とは言っても、その専攻による卒業論文のテーマ設定の縛りはほとんどなく、経営学科らしいテーマであれば、学生本人の希望に沿ったテーマで卒業論文を実施して良いこととなっている。

そのため、多くの学生の卒業論文のテーマは野球の球団経営などに関するものが多くなった。その一方で、地域マネジメント専攻らしいテーマの卒論は、2つに限定された。1つは「名産品を活用した地域活性化」であり、もう1つは「淡路島の観光客の増加について」であった。そこで、この2つの卒業論文の概要について紹介する。

2. 「名産品を活用した地域活性化」

関西国際大学の三木キャンパスが位置する兵庫県三木市は、酒米の山田錦の生産地として有名である。しかし、酒米を原料とした日本酒の消費需要は落ち込んでおり、山田錦を利用した純米酢を酒蔵が生産し、その販売戦略について学生たちが検討している。

そこで、他の地域の名産品を活用した地域活性化について調査し、そこから三木市の山田錦による地域活性化への示唆を得ることとしている。高知県馬路村のゆず、愛媛県の瀬戸内レモンの事例と、三木市の山田錦の事例について、顧客分析、購入動機、デジタルマーケティングの活用などについて比較している。

その結果、三木市の山田錦を活用した地域活性化の改善点として、以下について提案している。(1) 山田錦を活用した商品の種類を増加させ、日本酒、純米酢、スイーツ、美容グッズなどの多様な商品ラインナップを検討すべきである。(2) 山田錦の日本酒の試飲体験の場を増加させ、知名度アップを図るべきである。

3. 「淡路島の観光客の増加について」

淡路島の観光客数が増加している背景や要因を明らかにし、それによって観光客数を

*関西国際大学 Kansai University of International Studies

キーワード：学生，卒業論文，地域活性化

増加させるための具体的な施策や戦略について検討している。淡路島の観光資源としては、自然資源、人間浄瑠璃などの歴史・文化資源、玉ねぎや淡路ビーフなどの食文化があるとしている。

観光客数は、新型コロナが収まってから増加に転じている。その要因として、アクセスの改善、魅力的な観光スポット、食の魅力、自然環境、プロモーション活動があるとしている。これらの要因によって、リピーターが増加しているとしている。

一方、観光地としての課題としては、交通アクセスの問題、宿泊施設の多様性不足、観光情報の不足、観光シーズンの偏りなどがあるとしている。そのため改善策として、公共交通機関の充実、多様な価格帯とスタイルの宿泊施設の開発、観光情報発信のためのウェブサイトの強化や観光情報アプリの開発、観光シーズンの偏りを是正するためのイベントの開催やプロモーションの実施などを挙げている。

4. 地域マネジメント専攻の学生の卒業論文の課題

関西国際大学の三木キャンパスにある経営学科の学生の大半が、野球、サッカー、テニスといったスポーツで入学してきた学生である。そのため、三木キャンパスの経営学科は地域マネジメント専攻で、地域活性化をテーマとした卒業論文に取り組むことが求められるが、多くの学生の関心はスポーツ関連に集中し、地域活性化に直接的に関連するテーマで卒業論文に取り組む学生が少ない。

1年生の必修科目として、「経営学概論」、「経済学概論」、「マーケティング」、「ファイナンス」など経営に関する科目を履修しているが、学生がそれを十分に習得していない感がある。また、1年生、2年生、3年生とゼミで地域マネジメントや地域活性化についての取り組みを行ったり、2年生の夏学期には地元の企業、自治体、NPO法人などでのインターンシップを経験学習として必修としているが、学生の地域マネジメントや地域活性化についての理解が十分に深まっていない感がある。そのため、4年生で行う卒業論文のテーマにおいても、地域マネジメント専攻として地域活性化に関連するテーマを選択するよりも、スポーツ関連のテーマを選ぶ学生が多い状況となっている。

そのため、地域マネジメント専攻の学生として地域活性化について、より深く関心を持たせていくための、教員側の取り組みが重要であると感じられる。

5. おわりに

関西国際大学の三木キャンパスにある経営学科の学生のうち、筆者が担当した 2025 年 3 月に卒業する学生 13 名の卒業論文の中から、地域活性化に関連するものを紹介した。その一方で、スポーツで入学してきた学生に、地域マネジメントや地域活性化について十分に理解を深めさせ、地域マネジメント専攻の学生としてふさわしい地域活性化をテーマとした卒業論文に取り組ませることへの課題を示した。